

青葉区では、7月9日（火）に町内会役員を対象とした「町内会役員担い手講座」を開催しました。講座には19名の方にご参加いただき、町内会活性化のヒントについて講義を聞いたのち、グループに分かれて意見交換をしました。

#### ◀開催概要▶

日時：令和元年7月9日（火）  
13:30～16:30

場所：宮城総合支所 3階会議室

参加者：19名

内容：講義

チェックシートを用いた自己診断  
ワークショップ  
発表・まとめ

## ■ 講義

株式会社KITABA常務取締役 内匠庸介氏から、地域コミュニティを支える町内会の必要性や、町内会が抱える課題、課題解決のための考え方やヒントなどの話題提供が行われました。



## ■ チェックシートを用いた自己診断

講義の後には、「町内会タイプ分類&自己診断シート」を使って、それぞれ参加者のみなさんに、世帯構成と居住形態から見た『町内会のタイプ』を診断してもらいました。

## ■ ワークショップの全体結果

ワークショップでは、町内会のタイプごとに3つのグループに分かれ、「町内会の課題」と「課題に対する解決のアイデア」を出し合いました。グループの発表では、町内会の担い手づくりなどに関してさまざまなアイデアが出され全体で共有しました。

※グループごとの意見やアイデアは裏面をご覧ください。

## ワークショップ全体のまとめ

### ○ 高齢化に伴う課題

- ・ 町内会の高齢化が進んでいる。特に単身高齢者の増加。町内会の行事がマンネリ化。
- ・ 若い世代が入ってきているところもあるが、若い人の意見が反映されない状況。
- ・ 若い世代が町内会や地域に対して無関心である。
- ・ 空き家が増えてきており、防犯などの懸念がある。

### ● 参加しやすい仕組みや雰囲気づくり

- ・ 1～2年の輪番制にすることで参加しやすくする。
- ・ 会長は大変なイメージがあるので、大変ではない、楽しいということを、しっかり説明やPRする。
- ・ 副会長を増やして複数制にすることで、1人の負担を軽減する。

### ● 若い世代の関心を高める

- ・ まずは、若い世代の町内会に対する関心を高めることから始める。

### ● 他の団体との連携

- ・ 子ども会などと連携して、もちつきやお祭りなどのイベントでコミュニケーションをとっていく。
- ・ 地元企業と連携する。

### ● 行政からの負担を減らす

- ・ 回覧物や充て職など行政からの仕事が多く負担になっているため、それらを減らす。

# グループごとの意見・アイデア

各グループでは、このようなアイデアが出されました！

1

グループ

【課題】 担い手不足

【アイデア】

- 会長にすべてを押し付けない。
- 子ども会との連携。
- 子ども会の役員さんに、町内会の役員を兼任してもらう。
- 副会長を増やし、次期会長候補を確保する。

2

グループ

【課題】 高齢化

- 役員に高齢者が多く、若者の意見が受け入れられにくいいため、若い人が関わりたくないような状況。

- 孤独死問題

【アイデア】

- 単身高齢者が多く、定期的に見回りを行う。

【課題】 町内会加入者と会費収入の減少

- 若い人の町内会への加入率の低下。
- 町内会の仕事が多すぎる。

【アイデア】

- 見やすくわかりやすい町内会だよりを作成し町内会加入を検討してもらう。
- 若い人の入居しやすいまちづくりを進める。
- 町内会のイベントの資金源を、地元企業からの協賛に求めているかどうか。

【課題】 空き家の増加

- 【課題】 温泉地だがお客さんが減少しており、集客のアイデアを求めている。

3

グループ

【課題】 担い手不足

【アイデア】

- 輪番制（1～2年）にする。
- 会長の仕事の説明方法を工夫する。
- 行政からの依頼や仕事を減らす。
- 子ども会と連携する。
- 副会長の人数を増やす。

